

日十月二

常盤寺日新聞

定額 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元
 廣告料 五割
 電話 六〇〇〇
 印刷所 常盤寺日新聞株式会社

必至滅度の願

眞、繼、雲、山

【二】

若し佛様なるものが善事を修したるものは極樂へ迎へ取つてやる、悪事をはたらいたものは地獄へ蹴落して仕舞うぞと仰つしやつてゐるお方であるとすれば、それは世上の裁判官や賞罰局とあまり違つた態度ではない、しかし佛様とはもと／＼そのやうな相対的巧利的なお方ではなく、その慈悲は絶對である善人のみをわしは救ふ、惡黨原はわしや嫌ひぢやといふ差別待遇をなさるものではなく、「惡人なれば惡人であるほどにわしは不憫に思ふぞ、惡人を正容として正容をわしは救はずには措かぬ」といふのが惡人正機の教へである、惡人正機とは惡が惡のまゝであつてよいといふのではない、惡のまゝで救はれるといふのではない、信心によつて惡がおのづから解消されることを意味する、觀消されたときに救ひは成立する。

人間の宗教としての方からいへば念佛を稱へたものは救はれるといふのが行を表とする淨土宗の教へであり信じたものだけが救はれるといふのが信を表とする眞宗の安心であるが、それは人間の立前としてさういふことになるまでの話であつて、先方の佛様御自身は「わしを念じたもの信じてくれるものだけを救ふぞ、わしを信じてくれないものは捨てるぞ」とは露さら仰る。その意味の誓願であり、分けても第十一願には「必至滅度の願(すなはち必ず極樂に迎へるとの誓ひ)とあり、その文に「たとひ我れ佛を得たらんに國中の人天必ず滅度に至らざるば正覺を取らじ」即ち佛とは成るまじきと誓はせられてゐるのである、左様に誓ひ下された阿彌陀様が今現に西方に佛と成つてゐます以上、善人惡人老若幼者の差別なく皆なことごとく極樂に迎へ取らるゝ有り難い身の上であること露一點の疑ひはない。

ノート

姿焼を手際よくする秘傳は尾ひれなどはこげやすいのですがぬれ紙で尾ひれを包むか大根など二分位の厚みに輪切りに庖丁を入れたもので挟むかいたします、そして尾の方は稍々上げ氣味にし頭の方を下げて火にかけます



童話 あさ 丹下紀代子

裏のあき地の おにごつこ おに、おはれて 目がさめて お窓を見れば あほじろく 静かな朝になつて居た ゆふべのあらしも やんでます

【朝】すまし汁：わかめ 切乾 大根
 【晝】フライ：鮮魚フライ 小かぶからしあへ
 【晩】ねぎみそ汁：焼豆腐

これは是れ、わたくしのこしらへ言ではなく、阿彌陀佛の四十八願はことごとくお乳車を通ります

たしの素景品付
賣出し期迫る
 經濟で美味なだしの素を未だ御使用なき御料理店飲食店様及御家庭へ是非おすゝめします。御客様も御家族様もきつと御満足いたします

▼販賣員募集
 新川町新藤屋隣

京一醬油直賣所

三河産業博覽會 金牌受賞
 昭和産業博覽會 金牌受賞

かまぼこ製造
おまぼこ
 用式儀

お惣菜用 さつま揚 吉原揚

平町一丁目
不二保實
 電話一四一番

吸入用酸素純度 99%

モノサシ
 マス
 ハカリ

体温器
 寒暖計

秤ノ取緒。垂糸。修繕致シマス

關内藥局
 電話四〇番

外科

門專 X
 科線 光

上田外科病院

平町南町
 電話一二九番

御贈答に
 記念品に
 諸景品に

漆器を!!!

誠實勉強 親切第一 在庫豊富

是非御用命を
 ドコヨリモ、ヨイシナラ、ドコヨリモ、ヤスクウ
 ル、又ルモノミセ
 平町三丁目北裏(元郵便局裏通り)

各産産漆器
 専門卸小賣
(共) 漆器店
 店員募集 十三四才位 小 店員 三十才迄位 外 交員

玉屋洋品店

平町田町通電話六五六番

耳鼻咽喉科専門

氣管食道科

平南町 (電話一七〇番)

大和田醫院

來年度匡救事業

百萬圓か

既に十三町村が

四十九萬圓申込

平土木監督所では目下八年度分匡救工事豫算を各町村より取纏め申込済となつた町村は小名濱町外十二ヶ村で此工費豫算額は四十八萬七千七百五十圓に及んで居るが未決町村の分を加へると百萬圓に達する模様であるといふに申込町村の工費豫算は左の如くである

- (小名濱)五六〇〇〇圓(勿來)二〇〇〇〇(渡邊)二〇〇〇〇(山田)一二〇〇〇(飯野)三八五〇〇(夏井)四四〇〇〇(豊間)二〇〇〇〇(鹿島)二九〇〇〇(玉川)三五〇〇〇(好間)二〇三〇〇(赤井)四八〇〇〇(川前)一五〇〇〇(小川)二三五〇〇

本縣最初の

肺結核豫防 短期講習

看護婦其他を招集して

十五日平署に開く

平警察署では縣衛生課と聯合して来る十五日午前九時より看護婦及び同見習其他一般希望者を同署會議室に招集して肺結核豫防に關する短期講習會を催す事にな

學校から

家庭へ注文

父兄懇談會を開き

田津校長力説

平第二小學校にては来る三月三日父兄懇談會を開き學校と家庭が提携して兒童の育に善所する爲め田津校長は當日左の如き事項に就いて特に父兄の注意を喚起す

る事に努めると

- 一、家庭にては成る可く日々時を定めて學習せしめその餘は掃除家事裁縫等を手傳をなさしめ來客應接にも習熟せしめられたい
- 二、常に往來する學友の行狀につきては特に留意されたい
- 三、夜間に於ける單獨外出は嚴禁されたい
- 四、男女學生混同の遊戯特に夜間の遊戯は嚴禁せられ若し止むを得ざる場合は充分の監督の許にせられたい
- 五、小遣の費除を明らかにし必要以外は貯蓄せしむる様注意ありたい
- 六、手紙の交際には特に注意ありたい

磐女校最初の

校內辯論大會

出演者と演題決定

磐城高等女學校にては来る十六日午前十時より校內辯論大會を開催するが各出演者の題は左の如く決定した(服装の調美の美)三ノ一山本マサ(未定)一ノ一白土ワカ(婦人の地位向上に就いて)三ノ三永山ハマ(北海道に渡る)一ノ二菜花トミヨ(開國の前に)二ノ二鈴木サタ(小さな數學史)四ノ四下山田ケフ(スポーツに就いて)四ノ二荒垣トヨ(私達の榮養)四ノ一長瀬タマ(かまごこの光)二ノ四作山文字(トキキーの原理)四ノ一鈴木エイ(英語演説アワースクール)四ノ一渡邊チヨ(同未定)四ノ二草野千代子(書の道に就きて)四ノ二玉木キミ(椋鳥の夢)三ノ二江尻ノブ(女子と文學的教養)四ノ四三森芳(伸びてゆく力)一ノ四戸田美枝子

診療自動車の

郡下巡回日割

本縣巡回診療自動車第三班は来る十三日から濱通り方面へ出張されるが本郡下の日割は左の如くである

- 三月二日 鹿島村 三日 箕輪村 四日 永戸村 六日 石住村 七日 貝泊村 八日 荷夫村 十日 川部村 十二日 川部村

平近在の

金肥購入

平近在で昨年中に消費した金肥の購入高を見ると總數十萬八千五百七十貫金額は二千九百九十七圓であるが最

も多いのは大豆粕の三千七百廿五貫金額七百五十圓で次は過燐酸石灰の千七百廿五貫二百五十八圓、硫酸安

新人生募集

新年度の平青訓

平青年訓練所にては四月からの新入生を募集する爲め智識の向上、体力の充實、徳行の涵養に燃ゆる青年は來れとのポスターを調製近く街頭に張り出す筈である

平自營會に

御下賜金を

召を以つて御内帑金御下賜された爲め明日午後一時より福島刑務所に於て舉行される傳達式に小林檢察官が出席すると

五日間の武道講習

平署の道場に開いて

昇級試験を執行

武徳會平支部では来る廿日より平署會議室に五日間の武道講習會を催すが最後の廿四日には昇級試験を行ふ皆師範は同署四段十二所部長である

白米値下

一キロ五厘宛

平穀物検査所管内の米價は現在四等一俵八圓四十錢を前後し値下り氣味充滿して居るので平町米穀小賣商組合では昨日より各等白米、

道路愛護

表彰傳達

平土木監督所では明十一日午後二時より優良道路愛護組合として縣から表彰された鹿島村第七第二の兩組合に對し傳達式を舉行すると

聯合青訓

四倉で查閱

石城郡四倉、大浦、久之濱等各町村の青年訓練所聯合查閱は来る八日午前九時より四倉校庭にて執行されるが查閱官は福島縣隊區宮尾中佐である

女子卓球

個人選手

磐女で決定

磐城高等女學校にては来る十二日午前十時よりマルトモホールに於て開催される石城郡下第二回女子卓球個人選手大會の出場選手を左の如く決定した

役員問題

又悶着か

平理髮業組合では明十一日午前十時より平署會議室に定期總會を開催し役員改選及び決算報告等があるが例に依つて役員問題では一悶着免れまいと

同業組合組織

鐵工機械業者

平町鐵工業及び機械商は同業者の連絡懇親を圖る爲め小田部署長、青沼町長、諸橋久太郎氏を顧問とし石城鐵工機械同業組合を組織し本日午後六時半から谷口樓に發會式を擧げると

明日の建國祭

舉町一致の大行進

建國の大精神を呼び起す

第一校の式典を終つて

既報建國の大精神を胸の中に呼び起す爲め明日の建國祭は町役場、在郷軍人分會、青年團等が協議の結果式典當日午前十一時より第一小學校庭で左記順序のもとに執行

一、喇叭にて開式

一、國旗掲揚

一、國歌合唱

一、宣誓文朗讀

一、遙拜萬歳三唱

終つて五千餘名の學生隊並に各種団体員は左記道順に依つて市内を大行進し町役場前に於て解散する豫定である

磐中入學の

志願者激增

豫定數調査結果

磐城や學校にては過般來郡内全部の各小學校に對し新入學希望者數を問合せ大體の豫定數を調査した處昨年

は郡内三百三十六名外四十七計三百八十三名であつたのに比し本年は郡内のみにて約四百五十名に達して居る尤も此内には中途で事故

の爲め受験を見合すものもあるであらうが餘りの増加に學校當局も驚いてゐる

第二校の... 學童競書... 學校にては過般來全國學童競書大會の應募すべく練習中の處本日出品兒童を左の如く決定

(第一校 平高)本町 新川町 大町 堂ノ前 釜淵小路を経て役場へ (第二校)本町 大町 田町を経て役場へ (第三校 各種団体員)本町 新川町 南町 谷口 樓前を経て役場へ

大國旗

新調掲揚

明日舉行される建國祭の會場に當てられる平第一小學校では横一丈一尺七寸縦七尺八寸の大國旗を新調し校庭に掲揚して敬意を表する

死んだ積りで

國の爲めに働け

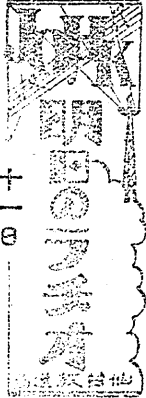
小松少尉の死誤りと聞き 廣田教諭が大喜び

昨報石城郡小名濱町字松之中七十六番地出身滿洲國少尉小松主税氏が奉天で自動車事故の爲めに死去したと傳へられたが死亡者は田村郡中妻村出身滿洲國少尉村上友安氏で小松少尉は無事と判明廣田中教諭は教へ子の無事を聞いて喜色満面に溢へ「昨日は家に歸へつて家内と共に戦死なら諦めも着くが自動車の事故等で死ぬとは残念だと語つた様な譯で本日は悔みに行つて

一六銀行の

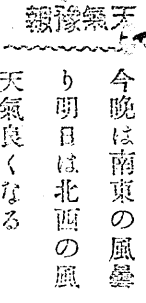
懷中を覗く

平町の庶民銀行とも云ふべし質屋さんが昨年中に取扱つた貸出口數は二萬三千七百七十三口で質流となつたのは千四百五十二口金額は



今晚の部

後六、〇〇 子供の時間 「風をひく子、ひかぬ子」 矢野雄 後七、三〇 講演 首相官邸より中継 内閣總理大臣齋藤實 文部大臣鳩山一郎 子 六年氏田ハツ



明日の部

後八、二〇 常磐津「明烏夢泡雪」岸澤古都佐外 後八、五〇 連続講談「大岡政談天」坊(終席)神田伯龍 後九、四〇 全國ニュース 氣象通報 番組豫告 明日の部 前九、三〇 奉祝唱歌 女

伯國移住講演

縣海外協會のブラザル移住獎勵講演會並に映畫會は来る廿二日湯本町、廿三日川前村等に於いて開催される筈

密會中を目撃して

積たツと計り暴行

鳥小屋で寄附 平町南町青年佐藤松雄外六名は

石城郡内郷村大字御殿字下宿百十五番地庄司虎一(三)は去る九日(舊十四日)の鳥小屋參詣の夜同村鈴木安喜(三)が女と密會して居た所を見付け癪に障つて邪魔だとして事から喧嘩となり庄司は鈴木を散々毆つて重傷を負せ本日平検事局に於て傷害として上田檢事の取調べを受けた

二七刑事

昨九日午後九時半頃平町南町飲食店華香亭方で泥酔した廿六七才の青年が俺は福島署の刑事で自轉車泥棒の犯人を捜査に平町へ出張中ものだと大威張りして客に食つてかゝる爲め家人が此旨電話で平署に通知するや忽ち眼の色變へて逃走したので目下平署では前記ニセ刑事を捜査中である

平裁判たより

茨城縣久慈郡金鄉村生れ目下住居不定茅野根吉雄(三)に對する詐欺事件の公判は来る十四日午前九時より平區裁判所に於て竹内判事係り上田檢事立會の下に開廷すると

平職業紹介所報告

- 求人を求める方
- △商店員 二十以下 尋卒 給料面談(平町某)
- △設計製圖係 二十前後 工業卒 月二十圓(平町某)
- △外交員 四十才 中卒 給料面談(平町某機械店)
- △回職を求める方
- △雜夫 二十四才 無學 給料面談(平町某)
- △小使 四十二才 中學二修 給料面談(磐崎村某)
- △精米雜役 二十才 尋卒 給料面談(磐崎村某)
- △活版工 三十五才 高卒 給料面談(大浦村某)

無試験で入學 磐城等女學校四年生平南町鈴高木良枝は成績優良の爲め東京女子齒科醫學專門學校に

幕末新劇

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第二百六十四席 千葉周作

船の衝突から喧嘩

津の宮の船頭四郎兵衛は漕いでゐたその船へ潮來から来た船が衝突した、乗つてゐた客が驚いて

○「これは危ねえ、あゝ船が壊れた」

と云はれて四郎兵衛が見ると舷がやぶれた

四「コレ野郎待て、何だつてこんな事をしたんだ、ウムわれは萬平だな」

萬「何だと、われは萬平だ」とこの船にゐるお客様は誰だと思ふ、目明し衆だぞ、御用で急ぐんだんだ船を打付けばとてそんなにおこるな、廣い川だ、よけて通れ」

四「この野郎無法な事を云ふ奴だ、ヤイ見ろ舷を打つかいたぞ、これは俺の船ではねえ權右衛門の持船だ、われはこれから權右衛門のところへ行つてよく詫ろ」

萬「何を云ふだこの老耄めこの上にも兎や角ぬかすとこの權で頭をぶつかくぞ、命が惜くば黙つてゐろ」

四「この野郎途方もねえ事をぬかしやアがる」

と四郎兵衛が大層おこつた、すると萬平の船に乗つてゐた目明しが

目「コレ〜爺俺達は御用に就て急ぐのだ喧嘩はあつてしろさアさ萬平早く船を持つて行け」

四「ハイ無法者でございませう、潮來の御陣屋の御用船の船頭をして居ります、で虎の威をかる狐我儘ばかり申して居ります、あいつのために津の宮の船頭は度々迷惑いたします、馬鹿者でございませう」

○「氣をつけなせよ」

船賃を拂つて客は潮來の町を指して行く、四郎兵衛は衣服を脱いで休息してこの船を下に持つて行き、それから津の宮に戻らうと思ひかちを執つて下へさがるところが向ふからせつせと船を漕いで來たは萬平

萬「爺い爺逃げるな野郎待て」

○「船頭さんお前この人を知つてゐるか」

船「知つて居りますとも津の宮の四郎兵衛爺でございませう」

○「やはり船頭かオ〜爺さん確かりしろ」

と耳もとで二三度呼ぶとウ〜ム萬平と云つたがそれから何も云へない船頭はこれを見てそれでは萬平に打殺されたか藤作がこれを聞いたら歎くであらう、ヤ〜イ爺さんしつかりさつせえと呼べど叫べともう答へはない、そこで四郎兵衛をこの舟に乗せて津の宮に参りました



と云ひ捨て、船を津の宮を持つて行く、四郎兵衛の船に乗つてゐた客は

○「船頭さんあの萬平と云ふ奴は亂暴者だな」

るといけね馬鹿と火には近寄りぬ方がいゝ、道を替へて行かつせえ」

四「ハイ有難うございませう、死んだかヤ〜爺、萬平の腕前を見たか」

高久病院

院長 醫學士 高久 忠
副院長 新潟醫學士 赤羽 清
藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄
内科小兒科 外科花柳病科
耳鼻咽喉科 レントゲン科
平町田町 電話五一三番

江戸前料理 倉巻

錦水自慢の鳥料理
水タキ 大和漬

錦水
電話四五四番

市原醫院

平町田町(電話一一四番)
内科小兒科 市原卯太郎
外科一般、婦人科 市原陸郎
外科梅毒、淋病 市原三三男
入院隨時

木村外科醫院

平町五丁目橋際
電話三〇九

お醤油は ヤマフル

醤油味噌
たひら 正宗
鯉節 食料品

鹽屋

山崎合名會社
福島縣平町(電話營業部二釀造工場三)
明治生命磐城代理店 山崎與三郎